

# 報告

## 第7回男女共同参画フォーラム

常任理事 藤井 美穂

例年通りの7月最終土曜日に、日本医師会主催男女共同参画フォーラムが開催された。第7回目の今年は、こんもりと緑の美しい東北の地で秋田県医師会が担当した。奥羽山脈で隔てられた東北太平洋側の、地域の生活も自然もなご倒されている映像を思い浮かべながら、秋田空港に入った。

今年のメインテーマを「育てる～男女共同参画のための意識改革から実践へ～」とし、基調講演の演者である内閣府政策統括官・村木厚子氏をはじめ、医学生から研修医、専門医に対する教育、そして方

針決定部門へ参加する医師の育成まで、シンポジウムの5人の演者がその現場の経験から、熱い思いを伝えた。男性129名、女性162名の計291名の参加だった。

基調講演の村木氏はテレビ画面と同じきゃしゃな女性で、その話し振りは、淡々とクールであり、許容力を感じさせるものの清々しさに溢れるものであった。

1) 人口減少に歯止めがかからず、急速に進む少子高齢化のわが国の現状を説明、戦後の出生数を見ると、昭和22～24年の第一次ベビーブーム、昭和46～49年の第二次ベビーブームに続き、平成10年前後に本来見られるはずの第三次ベビーブームの山はなく、現在30歳代後半に当たる女性たちが出産していないことが推測できる(図1)。

2) ①独身男女の約9割が結婚の希望をもちながらも、若年者の非正規雇用の増加で経済的に結婚ができない②出産前に仕事をしてきた女性の約6割が出産を機に退職しており、育児休業制度の利用は増えているものの、出産前後で就業している女性の割合はこの20年間変化がない③わが国の男性の家事・育児に費やす時間は世界的に最低水準であり、父親の育児参加を妨げている「働き方の改革」が急務である④長時間労働などにより父親の育児参加が得られない中、子育てが孤立化し負担が大きくなっている現状をカバーする取組が必要である、など結婚・出産を取り巻く厳しい状況がある。

3) 日本の女性労働力が示すM字カーブはOECD諸国においては特殊である。合計特殊出生率と女性労働力は比例しており、「仕事をしている女性ほど子どもを産む」世界の中で、日本はギリシャ・イタリア・スペイン同様、そのどちらも最低レベルにある。中等教育以上の教育を受けているなどで測る「ジェンダー不平等指数」は138カ国中12位であるわが国が、女性が政治および経済活動に参画し、意思決定に参画できているかを測る「ジェンダー・エンパワーメント指数」が109カ国中57位というギャップを解決すべきである(図2)。

4) 労働力人口や消費者の減少によるわが国の成長力低下を救うためにも、M字カーブの解消により女性労働力人口を増加させる必要がある。女性が活躍できる組織づくり、多様なライフスタイルを選択できる社会制度の構築が必要である。わが国のM字カーブをなくし、男女共同参画を推進するために、女性医師が働き続ける状況を実現し、ぜひ医療界がモデルを示していただきたい(図3)。

### 第7回男女共同参画フォーラム

日時: 平成23年7月30日(土) 午後1時～5時

場所: 秋田ビューホテル4階「飛翔の間」

主催: 日本医師会

担当: 秋田県医師会

メインテーマ「育てる～男女共同参画のための意識改革から実践へ～」

#### 【次第】

	総司会: 秋田県医師会常任理事	小泉ひろみ
13:00	開 会	秋田県医師会副会長 斎藤 征司
13:02	挨拶	日本医師会会長 原中 勝征 秋田県医師会会長 小山田 雅
13:10	基調講演 「これからの「支え手」を考える～男女共同参画と子ども・子育て支援～」	
	内閣府政策統括官(共生社会政策担当)／内閣府自殺対策推進室長／ 内閣官房内閣官房副長官補付内閣審議官／待機児童ゼロ特命チーム事務局長	村木 厚子 坂本 哲也 座長: 秋田県医師会副会長 日本医師会常任理事 保坂シゲリ
13:50	提 言 「災害と男女共同参画」	
14:00	報 告	
	1. 日本医師会男女共同参画委員会 日本医師会男女共同参画委員会委員長／秋田県医師会理事	小笠原真澄
	2. 日本医師会女性医師支援センター事業 日本医師会女性医師バンク中央センター統括コーディネーター／ 日本医師会男女共同参画委員会副委員長	秋葉 則子
14:15	ショートブレイク	
14:25	シンポジウム 「育てる～男女共同参画のための意識改革から実践へ～」	
	座長: 秋田県医師会女性医師委員会委員 日本医師会男女共同参画委員会委員長／秋田県医師会理事	小野 剛 小笠原真澄
	1. 医学生を育てる 教育する立場から 秋田大学医学部総合地域医療推進学講座	蓮沼 直子
	学生の立場から 秋田大学医学部4年生	大内 祐香
	2. 若手医師(研修医)を育てる 平鹿総合病院循環器内科科長	伏見 悦子
	3. 専門医を育てる～キャリアアップ支援システムについて～ 藤田保健衛生大学医学部脳神経外科教授／ 藤田保健衛生大学病院救命救急センター長	加藤 庸子
	4. ターニングポイントにある医師を育てる～仕事を継続する～再研修システムを含めて～ 東京女子医科大学附属女性生涯健康センター教授／副所長	檜垣 祐子
	5. 意思決定部門・方針決定部門へ参加していく医師を育てる 日本医師会副会長	羽生田 俊
15:45	総合討論	コメンテーター: 日本医師会常任理事 保坂シゲリ
16:45	第7回男女共同参画フォーラム宣言採択	
	秋田県医師会女性医師委員会委員	榎 真美子
16:55	次期担当医師会会長挨拶	富山県医師会会長 岩城 勝英
17:00	閉 会	秋田県医師会副会長 坂本 哲也

女子学生が40.7%を占める秋田大学医学部で行われている男女共同参画・キャリア形成に関する講義の実際を、総合地域医療推進学講座の教師と講義に参加した学生から報告があった。自身が5人のお子さんをもちながら、2年の単身赴任を含め継続的に臨床現場で働き、現在循環器科・リハビリテーション科長をつとめる後輩指導のリーダー医師が、現場で働き続けたいと頑張る後輩をどのようにサポートしたかの事例報告に続き、東京女子医大の再研修システムとその運用状況が紹介された。

女性脳外科医の草分けである加藤庸子先生は、女性医師自身の意識改革と、医師がモチベーションを維持し続けるための、男女を問わない働き方に対する意識改革が必要であることを述べた。外科医は手術場に戻ることがゴールであり、育てる側は後輩医師と臨床の場でふれあい、「出る杭を育てる」意識を持つことが必要である、女性医師は穴埋めの仕事をするのではなく、専門職として資格や付加価値を付けることに継続的に力を注ぐ意思をもっていただきたいと結んだ。

日本医師会・羽生田副会長は日本医師会の最高意思決定機関である日医代議員会に占める女性代議員はわずか8人(2.2%)であり、第3次男女共同参画基本計画の「2020年30%」の目標実現に向けての日医のポジティブ・アクションについて述べるととも

## 人口減少、少子高齢化時代の到来

○現在わが国においては急速に少子化が進行。合計特殊出生率は、平成17年に1.26と過去最低を更新。18年～20年の出生率は前年を上回ったが21年は横ばいとなり、依然として厳しい状況。

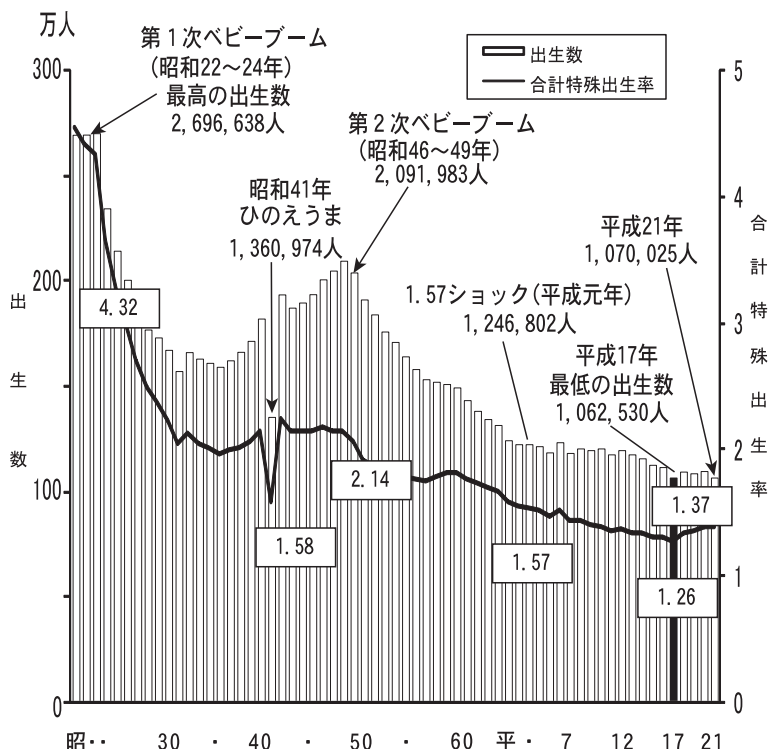
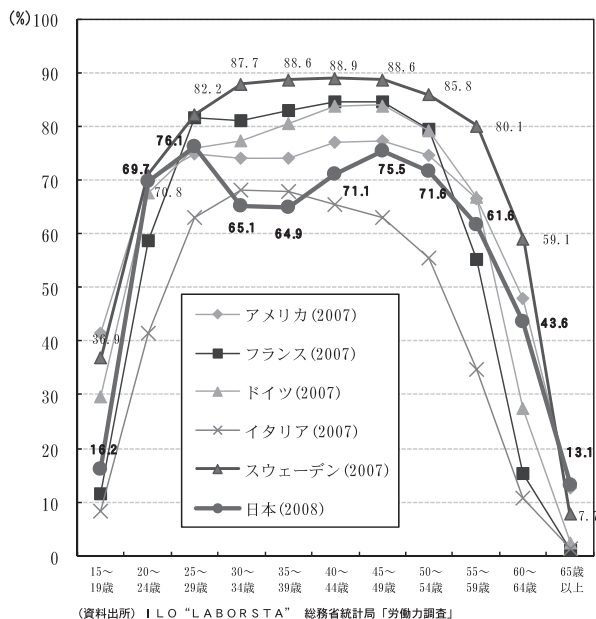


図1 子ども・子育てをめぐる現状について

○女性の社会進出が進んでいる国ほど、合計特殊出生率も高い傾向にある。

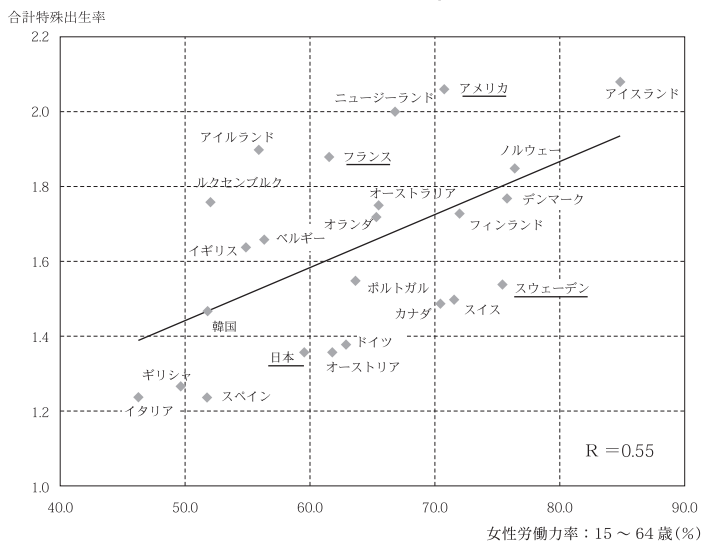
### M字カーブの国際比較



(資料出所) ILO "LABORSTA" 総務省統計局「労働力調査」

図2 結婚や出産をとりまく状況－依然として難しい女性の就業継続

### OECD加盟24ヵ国における合計特殊出生率と女性労働力率



・女性をはじめとする働く意欲を持つすべての若者の労働市場参加を実現しつつ、  
 ・国民の希望する結婚・出産・子育てを可能とする

このためには

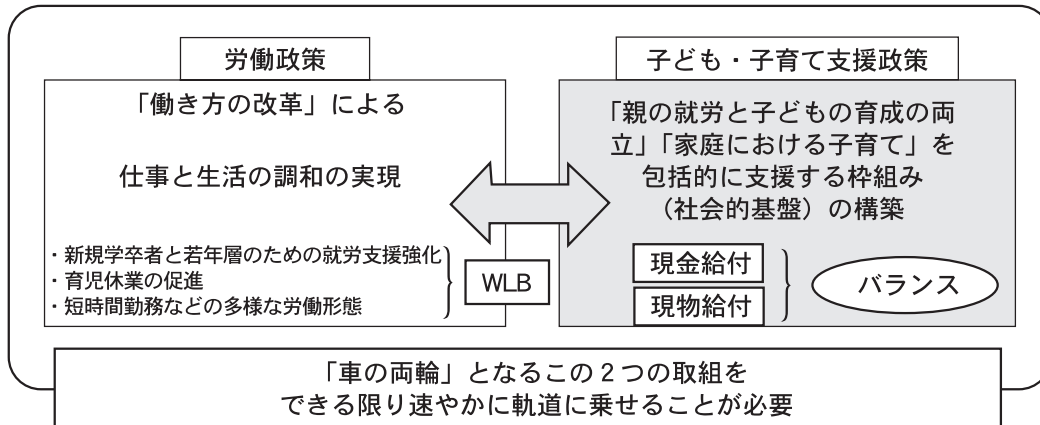


図3 子ども・子育て支援政策と労働政策

## 「2020年30%」の目標実現に向けて日本医師会の積極的改善措置（ポジティブ・アクション）

役員会承認（23. 3. 9 定例記者会見発表）

### 【趣旨】

昨年12月、第3次男女共同参画基本計画が閣議決定され、この中で「社会のあらゆる分野において、2020年までに、指導的地位に女性が占める割合が、少なくとも30%程度になるよう期待する」という目標が改めて明記されるとともに、各分野の女性の積極的登用についての成果目標が掲げられたところである。

日本医師会においても、以下の通り、成果目標を掲げて積極的改善措置（ポジティブ・アクション）に関する取り組みを進めていく。

### 【成果目標】「女性1割運動」

1. 平成24（2012）年度までに、委員会委員に女性を最低1名登用！  
女性1割に！
2. 平成26（2014）年度までに、理事・監事に女性を最低1名、常任理事に女性を最低1名登用！  
役員の女性の割合を1割に！

図4 日本医師会のポジティブアクション

### 第7回男女共同参画フォーラム宣言採択

秋田県医師会女性医師委員会委員  
榎 真美子

### 宣言

すべての医師がその使命を果たしていくためには、勤務環境の整備とそのための施策の実践が必要であり、医師の勤務形態の見直しに対する社会全体の意識改革が求められている。

とりわけ女性医師が仕事を継続し能力を十分に発揮していくためには、多様な勤務形態を可能とする環境を実現するとともに、女性医師自らが社会に貢献していくという自信と誇りを持ち続けなければならない。

私たちは、その矜持のもと、社会的基盤の整備を推進していくために、立場の違いを越えて行動していくことをここに宣言する。

平成23年7月30日  
日本医師会第7回男女共同参画フォーラム

に、医政活動への参画、医師としての意見の発信が必要であるなど、医師全体の意識改革をうながしていきたくと結んだ（図4）。

総合討論では、村木氏が後輩を育てる4つのポイントを明確にした。

- [1] キャリア継続のための多様なモデルを具体的に提示する
- [2] 面白くなければ仕事と家庭との両立はできない、やりがいのある仕事に到達するためには mission を明確にし、得意なことを育てる
- [3] 子どもを持つことのプラスがある、子育て経験で得た危機管理意識は大事、勝たなくていいから負けないように
- [4] 後輩にはチャンスを与え、まずやらせること！  
失敗したら上司のミス、成功したら本人の功績

最後に、どんな人がのびるか？という質問に答えたAKB48を育てた人の言葉で結んだ。「やりたいこと、やらなければいけないこと、できることのバランスがとれる人がのびる!!」

フォーラムは第7回男女共同参画フォーラム宣言を採択し、盛会裡に終了。来年の第8回担当県の富山県医師会に引継いだ。



なお、平成22年度に道内3医育大学において医学生サポート事業（各大学によって名称は異なる）を行っているので、以下のとおり紹介したい。

### 第7回医学部学生と女性医師の語る夕べ (旭川医科大学)

日時 平成22年11月24日(水) 18:00~20:13  
場所 旭川医科大学機器センター3階  
「カンファレンスルーム」

出席者 26名(医師18名、学生8名)

#### 懇談会の状況

安藤旭川市医師会女性医師部会長より開会。旭川市医師会の後藤副会長から挨拶があり、報告・講演の後、4グループに分かれ、先輩医師を囲みディスカッションが行われた。

報告「病後児保育の1年間の歩み」

旭川医科大学二輪草センター助教

岸部麻里

講演1「休職、出産、育児を経験して」

旭川医科大学内科学講座病態代謝内科学分野

豊島哲子

講演2「選択—その時の自分を信じて—」

医療法人元生会森山病院耳鼻咽喉科

内田祥子

### 第3回女性医師の今～座談会～ (北海道大学)

日時 平成22年12月3日(金) 18:00~20:50  
場所 北海道大学病院管理棟2階  
「第一ゼミナル室」

出席者 23名(男性医師3名、女性医師10名、研修医1名、男子学生1名、女子学生5名、その他3名)

#### 座談会の状況

長井北海道女性医師の会理事より開会。守内北海道女性医師の会会長から挨拶があり座談会に入った。座談会では、「より良い医療をつくるために」と題し、以下のさまざまな立場の方がパネリストとなり、女性医師がいきいきと仕事を続けていくために、具体的にどのようにしたら良いか等についてディスカッションが行われた。

#### ○パネリスト

- ・北大卒業臨床研修センター副センター長 宮田靖志先生
- ・札幌東徳州会病院院長 清水洋三先生
- ・北大耳鼻咽喉科 打田葉子先生
- ・女性医師等就労支援事業 清水薫子先生
- ・卒後臨床研修医 清水茜弥先生
- ・北大医学部学生 柴田美音さん、宮本國之さん

○休憩後、参加者が無記名で質問票に記入し、司会者が回答者を指名する「意見・質問コーナー」が設けられ、

- ・外科を志しているが、子どもを持ちながらどうしたら一生の仕事にできるのか。
- ・自分の生活を大事にしたいと思うが、どこまでが「わがまま」でどこまでが「権利」なのか。
- ・女性でもできそうな科を選ぶのか、自分を受け入れてくれる科を選ぶのか迷う。

などの質問・意見に対し、先輩医師からの確かなアドバイス等が行われた。

### 第5回医学生と医師のおしゃべりフォーラム ～医師のさまざまな働き方に触れる～

(札幌医科大学)

日時 平成23年1月15日(土) 14:00~16:43  
場所 札幌医科大学基礎研究棟5階会議室  
出席者 28名(男性医師1名、女性医師10名、研修医1名、学生15名、その他1名)

#### フォーラムの状況

本フォーラム実行委員会の伊藤代表から開会、北海道女性医師の会・守内会長から挨拶があり、6名の医師等による講演が行われた。その後パネルディスカッションならびにフリートークを行った。

#### 講演

- ・札幌医科大学学長・理事長 島本和明先生
- ・北海道地域医師確保推進室 鈴木隆浩主幹
- ・勤医協中央病院初期研修医 川名 瞳先生
- ・札幌医科大学医化学講座 高橋素子先生
- ・北海道大学医学部整形外科 遠藤香織先生
- ・旭川市立病院耳鼻咽喉科 安藤敬子先生

#### パネルディスカッション

永石先生(北海道女性医師の会)の司会進行により、島本先生、安藤先生、高橋先生、遠藤先生、川名先生がパネリストとなり、参加者から寄せられたテーマ(以下のとおり)に基づきディスカッションが行われた。

【参加者から寄せられたテーマ】

- a. 研修について
- b. 科の選択について
- c. 仕事の継続について
- d. 基礎研究について
- e. 家事・子育てについて